

派遣留学生帰国報告書

* 帰国(復学)後の情報を入力してください

記入日	2020/2/12
所属学部・ 研究科・学府	融合理工学府
所属学科・専攻	地球環境科学専攻

1. 留学先について

留学先大学名	ウイスコンシン大学ミルウォーキー校										
留学先所属学部等	Geosciences										
留学期間	出発日	2019/8/22	入学日	2019/9/29	修了日	2019/12/20	帰国日	2019/12/28			
住居	大学(紹介)の寮・アパート	<input type="radio"/>	民間アパート	<input type="radio"/>	その他()						
	通学時間	15~30分				On campus					
	通学方法	学校のシャトルバス									
	居室スペース	個室	<input type="radio"/>	(4) 人部屋	その他()						
	共有スペース	完全個室	<input type="radio"/>	キッチン	<input type="radio"/>	トイレ	<input type="radio"/>	バス	<input type="radio"/>	リビング	<input type="radio"/>
食事	自炊	0%	学食	70%	外食	25%	その他	5%	(友達の家)		
保険	海外旅行保険(名称)	ジェイアイ傷害火災保険									
	派遣先大学指定の保険(名称)	UWM Health Insurance					<input checked="" type="checkbox"/> 強制加入				
	その他	クレジットカード付帯の保険									
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウイスコンシン(電車)										
	成田 ⇄		シカゴ(飛行機)			⇄ ウイスコンシン(バス)					

2. 留学にかかった費用について

総費用	150万 円						
出どころ							
自費	<input type="radio"/>	貯金	70万 円	アルバイト	円	その他	円
援助	<input type="radio"/>	両親	80万 円	家族・親戚	円	その他	円
奨学金		JASSO	円	その他名称()			円
その他			円	その他()			円

2-1. 財政管理の方法

渡航時	<input type="radio"/>	現金	20,000 円	<input type="radio"/>	その他()	円
留学中	<input type="radio"/>	海外送金	<input type="checkbox"/>	キャッシング	<input type="radio"/>	その他(カード)

2-2. 各費用の支払い方法

大学に払った費用	カード
住居にかかった費用	カード
その他	

2-3. 内訳

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)			150,000	円
海外旅行保険			70,000	円
OSSMA			10,000	円
査証・在留許可証			10,000	円
住居			500,000	円
食費			470,000	円
通学に要する交通費				円
教科書、教材費			10,000	円
その他大学に支払った経費				円
光熱費				円
その他 (交際費)			100,000	円
その他 (旅行代等)			150,000	円
その他 (クラブ活動費)			30,000	円
その他 ()				円

3. 学業面

履修科目名	種類 ^{ex.正規、聴講}	単位数	単位互換認定申請の有無		
			<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
1 EAP 420 Adv Rdg, Wrt & Grammar-Intl's	正規	4	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 GEO SCI 463G Physical Hydrogeology	正規	4	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 GEO SCI 635G Volcanology	正規	3	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

5				有		無
6				有		無
7				有		無
8				有		無
9				有		無
10				有		無

3-1. 授業科目の選択、登録方法

専門科目である地球科学の授業を履修しました。オンライン上のPAWというシステムを使い登録しました。

3-2. 授業内容、方法に関して

院生向けの授業が学部生と比較すると少なく、登録期間終了を待たずにすぐに埋まってしまう授業もいくつかありました。授業について、日本よりも発言を求められることが多かったです。また、課題も自習の時間も圧倒的に多かったです。授業数や授業時間も日本と比べると長かったです(例を挙げると、Physical Hydrogeologyはレクチャーが週に2コマで計3時間、ラボの時間が週1で3時間の合計6時間ありました)。

3-3. 語学力について

訛りが強い子や早口な子と話すときは困りました。また、聞き返されるとも度々ありましたが、コミュニケーションに困るほどではありませんでした。帰国後受けたTOEFLの点数はWriting以外は上がっていました。なぜかWritingは下がりました。

3-4. 図書館など学内施設について

課題が多かったため図書館にはほぼ毎日行っていました。中にコーヒーショップがあったり、パソコンスペース、ソファ席など充実していました。テスト前になると人が多く、良い席はすぐに埋まっていました。また、論文検索システムなどが充実しており、課題をする際助かりました。その他の学内施設も充実しており、病院やジムなどをよく利用していました。ジムは無料でマシンが使い放題で2人以上で行くと鏡のある部屋を貸し切ることもできました。

3-5. その他

治安の悪さは感じました。暗くなってからは絶対に一人で歩かないように、と現地の子に言われました。また人種差別が少し激しかったように感じます。バス停で薬物中毒のホームレスに「国に帰れ」と叫ばれたり日常茶飯事です。アジア人と関わったことがないのだろうな、というような現地の生徒も多かったように感じます。

4. 生活面

4-1. 住居について

一人部屋にすればよかったと後悔しました。スイトが4人、寝室が2人の寮だったのですが、スイトのうちの1人が人のものを勝手に使い続ける、トイレトペーパーなどの必需品を買わない、共同部分を掃除しないなど最悪でした。

また、ルームメイトは良い子でしたが生活リズムが違うのが辛かったです。また、ずっと部屋にいる子だったので一人の時間を持てなかったのも辛かったです。

4-2. 食生活について

小麦粉が多く少し体がだるくなったりしました。美味しい！という食べ物はあまりなかったです。寮はオフキャンパスでキッチンも付いてないのに学食もなく最悪でした。一応コンビニのような簡易的なものはあったのですがメニューは毎日同じで揚げ物の比率が高く、夜も7時には閉まるので不便でした。サラダの刻まれたパプリカにシールが付いたままだったときは驚きました。

4-3. インターネット環境、携帯電話について

SIMカードをついた当日に近所のケータイショップで買いました。

4-4. 服装について

みんな好きな格好をしていて自由でよかったです。パチパチにお洒落をしている人もいれば毎日スウェットの人、中にはパジャマの人もありました。マイナス気温の時に短パンの人を見かけることもありました。

4-5. 健康管理について

寮生活なので周りの人が風邪をひいてそれをもらうということを繰り返していました。学内に病院があるので数回行きました。

4-6. 保険、OSSMAの利用について

OSSMAは特に必要なかったように感じます。健康保険以外に物の保険にも入っていたので、滞在中に壊れたIphoneとイヤホンのお金が少し返ってきました。□

4-7. 課外活動について

ダンスのサークルみたいなものに入っていました。練習はきつかったです。現地の友達がたくさんできたので入ってよかったです。

4-8. 学外のコミュニティとの交流について

近くの私立大学の子もダンスのサークルにいました。大学合同のパフォーマンスなどもあって楽しかったです。

また、現地の友達の友達など、友達を通じて学外の人と知り合いになりました。

4-9. 日本から持参してよかったもの

日本のお菓子。たまたまりュックに入っているのを友達にあげたら大喜びされました。あとペパリーゼも喜ばれました。

4-10. 日本から持参したが不要だったもの

サランラップ。以前留学した際に現地のサランラップの質が悪いことに気がついて持って行ったのですが、キッチンがなかったのもそもそも使う機会がありませんでした。

4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

アメリカはオープンでフレンドリーなイメージでしたが、それは身を守るためでもあるのだなと思いました。もしかしたら相手が銃を持っているかもしれないから、と友達に言われてハッとしました。また、急病人や酔っ払って道ばたで倒れている人がいても日本のようにすぐに駆け寄ったりはしないほうが良い、と言われました。万が一仮病だった場合、「お前が触ったから悪くなった」と訴えられる可能性があるらしいです。日本よりもはるかに人種差別に厳しいです。その分日本よりも差別はすごいです。有色人種じゃないの方が、普段は気をつけているのかもしれませんが、酔っ払ってついそのようなことを言っているのを何度か目撃したことはあります。

また、アジア系で英語ネイティブの友達が言うには「ネイティブだからコミュニケーションに問題はないはずなのにアジア系というだけで壁を作られ仲良くなりにくい」と言っていたのでなかなか根深い問題なのだなと感じました。

4-12. 余暇の過ごし方

旅行

シカゴに3回、ニューヨークへ1回行きました。ナイアガラの滝も見に行く予定でしたが予算と授業の関係で断念しました。

その他 * 気分転換やストレス発散法など。

日が落ちるのが早く夜が長いので憂鬱な気持ちになりました。友達とお酒を飲んだり、外に出かけたり、ゲームをしたり、スポーツをしたりして気を紛らわせていました。

5. その他

5-1. 留学先大学について

いい大学だと思います。施設は整っていて、先生方も質問に行っても真摯に対応していただけます。

5-2. 留学希望者へのアドバイス

なんでも気になったことはチャレンジすると良いと思います。

5-3. 留学を終えて

良い経験になりました。今まではアメリカの大学生活が想像もできなかったのですが明確に知ることができてよかったです。またこれから研究を進めるにあたって良い刺激を受けることができました。この経験を生かして今後も頑張っていきたいです。